

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、産業創造系、機械系、電気系の各系がもつ特徴を生かし、伝統と実績を踏まえたものづくり教育を中心とした工業教育を行う。 校訓として、「誠実・剛毅」「自主・創造」「敬愛・協力」を掲げ、健全な生徒の育成を図る。 本校のミッション（使命）は、「地域社会のリーダーとなり得る人格を兼ね備えた、ものづくりのスペシャリストの育成」である。『「地域の宝」となる！』というスローガン（標語）を掲げ、経済産業省が提唱する『社会人基礎力（前に踏み出す力）（考え抜く力）（チームで働く力）』の育成とともに、優れた工業技術や創造性を有する人材を育成する。 1 人権尊重の理念を正しく理解し、豊かな人間性と基本的な生活態度や礼儀、正しい挨拶などの社会性を身に付けた生徒を育成する学校。 2 自ら課題を見つけ出し、他の人々と協働してその解決に主体的に取り組むことのできる、創造性豊かな製品開発のスペシャリストを育成する学校。 3 地域の「ものづくり教育」の発信源となり、地域に根ざし、保護者や地域の産業界から『地域の宝』と信頼される学校。 4 生徒一人ひとりを大切にした教育を実践し、生徒および保護者から『入学してよかった』『学んでよかった』『卒業してよかった』と言われる学校。
--

2 中期的目標

1 学習指導の推進（基礎的な学力と技能を定着させるとともに、思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学習に取り組む態度を育てる） (1) 基礎学力の定着を図るため、授業規律を徹底し、「魅力のある授業」・「わかる授業」を全教員で実践する。 ・授業理解度を 75% 以上。また、2021 年度までには、授業理解度を 80% 以上とする。 （授業理解度： H28 [普通科]71.8%・[専門科]68.6%、H29 75.8%・71.4%、H30 78.7%・74.8%） (2) 生徒の主体的・協同的な学びを推進する。教員の授業力の向上を図ることで生徒の満足度を高める。 ・授業アンケート結果による総合（設問 1 ～ 9）スコアを 3.18 以上とする。また、2021 年度までにはスコアを 3.20 以上とする。 ・授業公開週間を年 2 回実施するなど、教員の授業見学数を 250 回以上とする。また、2021 年度までには 300 回以上とする。 （授業アンケートスコア： H28 [7 月]3.12・[12 月]3.16、H29 3.16・3.21、H30 3.16・3.18） （授業見学への教員の参加数： H28 210 回、H29 264 回、H30 268 回） 2 生徒一人ひとりを大切にした教育の推進 (1) 工科高校における新たな教育を探求し、習得した技術・技能を基礎とした、製品開発力や発信力を育成する。 ・各種コンテスト、大会において積極的に参加をし、入賞等の成果を上げる。 （コンテスト応募件数： H28 30 件、H29 64 件、H30 133 件） (2) 正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」・「職業教育」の充実を図り、社会の変化に主体的に対応できる力を育成する。 ・応募前職場見学、インターンシップ、企業見学への参加者を累積で 450 名以上とする。また、2021 年度までには 500 名以上とする。 ・就職一次合格률을 85%以上とする（H28 87.8%、H29 86.3%、H30 86.7%） (3) 生徒一人ひとりに寄り添った指導を実践する。いじめを防止し、生徒に安全で安心は教育環境を提供する。 ・入学満足度を 70%以上、登校満足度を 70%以上、2021 年度までには、入学満足度を 72%以上、登校満足度を 72%以上。 （入学満足度： H28 64.9%、H29 72.0% H30 68.1%）（登校満足度： H28 62.3%、H29 68.1% H29 69.2%） (4) 支援が必要な生徒については、「個別的教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成し、個性に応じたきめ細やかな支援を行う。 3 基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成 (1) 家庭や地域と連携し、基本的生活習慣の確立と、社会性や規範意識をはぐくむ。また、課題を早期に発見し中途退学を防止する。 ・遅刻件数を 1000 件以下、退学率を 2 %未満とし、2021 年度年度には、遅刻件数を 900 件以下とする。 （遅刻回数： H28 861 件、H29 1073 件、H30 1129 件）（退学率： H28 3.30%、H29 2.94%、H30 2.4%） (2) 部活動や学校行事等の活性化を図り、生徒の自尊感情と愛校心を育成する。 ・クラブ加入率を 40%以上、2021 年度年度には、クラブ加入率を 45%以上とする。 （クラブ加入率： H28 50.1%、H29 42.0%、H30 39.2%） 4 地域と連携した広報活動の充実と開かれた学校づくり (1) 学校説明会等広報活動を積極的に行い、学校の魅力の発信を効果的に実施する。 ・オープンスクールを年 2 回開催し、参加者を 400 名以上とする。また、その他の説明会を年 12 回以上開催する。 （オープンスクール参加者： H30 451 名）（その他説明会開催回数： H30 12 回） (2) 「地域産業連携重点型」工科高校として、地域企業や、行政組織等と連携してイベントに参加し、活動成果を情報発信するとともに、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図る。 ・企業等連携を 25 社以上、学校 P R を 8 回以上とする。（企業等連携： H30 25 社）（学校 P R： H30 11 回） (3) 校内の ICT 化を推進し、効率的、効果的な情報発信をおこなう。また、会議時間の縮減を行い、教員の負担軽減を図る。 ・学校 Web ページの更新を 100 回以上とし、2021 年度には、学校 Web ページの更新を 200 回以上とする。 （学校 Web ページの更新： H28 83 回、H29 95 回、H30 257 回）
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和元年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【総合的な項目について】 ○総合的な項目については、生徒・保護者の評価としては、おおむね順調との評価であった。一方、教員からは、教育活動全般において十分でないとの問題意識が読み取れる。 ・《生徒評価》 「この学校に入ってよかった 70.8%（＋2.7%）」 「学校へ行くのが楽しい 64.7%（－4.5%）」 ・《保護者評価》 「佐野工科に行かせて良かった 94.7%（＋0.4%）」 「子どもは学校へ行くのを楽しみ 74.8%（－1.2%）」 ・《教員評価》 「生徒や保護者の願いにこたえている 66.0%（－7.9%）」 【学習指導について】 ○生徒・保護者からの結果からは、ここ数年の授業改善の取り組みが一定の効果を上げ、今年はその状況を維持できていると考えられる。一方、教員においては現状に満足せず、生徒一人ひとりに応じた教育の提供の必要性を感じている傾向が強く読み取れ、また、工業教育の方向性にも大きな問題意識を感じていると思われる。 ・《生徒評価》 「普通科目の授業はわかりやすい 76.9%（－1.8%）」 「専門科目の授業（座学）はわかりやすい 72.8%（－2.0%）」 「実験・実習などの授業はよく学習できている 81.1%（－1.5%）」 ともに微減であり、授業アンケートの評価は微増 3.21（＋0.3）であった。 ・《保護者評価》 「子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている 60.1%（＋0.4%）」 ・《教員評価》 「到達度の低い生徒に対する学習指導 40.0%（－14.3%）」及び 「学習意欲の高い生徒に対する学習指導 42.0%（－14.5%）」で否定的意見が増加。 「習熟度別授業をおこなうべき 86.0%（＋18.6%）」の項目が増加。 「本校の工業教育は現状のままでよい 22.5%（－14.5%）」の項目で減少。 【生徒指導等について】 ○生徒指導に関する項目においては、生徒・保護者からの回答からも一定の問題点がうかがえる。教員においても組織敵的対応の不備において問題が提議されており、今後より一層のきめ細やかな生徒指導の体制づくりが求められている。 ・《生徒評価》 「いじめについて真剣に対応してくれる 78.8%（－1.6%）」 「先生の指導は納得できる 59.2（－1.5%）」 ・《保護者評価》 「いじめや差別を許さず、厳しく対応 84.9%（－3.9%）」 「学校の生徒指導の方針に納得できる 80.3%（－3.5%）」（H30 までは「共感」） ・《教員評価》 「いじめの際の体制が整っている 42.0%（－16.7%）」 「組織的に対応できる体制 68.0%（＋0.6%）」 「家庭との密接な連携 74.0%（－6.4%）」 【その他の項目について】 ○生徒保護者ともに、進路についての目的意識と取り組みについては高い評価を得ている。また、保護者からは学校と家庭の連携において「不十分」との意見が増えている。教員においては、教員間での連携に強い危機意識を持っており、何らかの改善が必要と考えられる。 ・《生徒評価》 「進路のことを考えてこの学校に入学 80.4%（＋0.7%）」 「進路希望に応じた授業が選択できる 85.6%（＋1.1%）」 ・《保護者評価》 「ほかの学校にない特色がある 97.3%（＋0.1%）」 「進路や職業について適切な指導 93.6%（－0.5%）」 「家庭への連絡や意思疎通を積極的に、きめ細かく行っている 70.8%（－5.7%）」 ・《教員評価》 「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている 56.0%（－13.6%）」 「教育活動について、相談しあえる人間関係ができている 54.0%（－9.0%）」	第 1 回 令和元年 6 月 3 日（月） 15：40～17：00 ○オープンスクールのチラシにあるように来年からの改編にもなって、入試募集人数が 280 人から今年度 240 人。そして 210 人と減っていく状況がある。今年度も募集定員を超えたことは喜ぶべきことで、少数精鋭という印象を受けるが、実際に今年の新入生の状況はどうか？ Ans. 比較的優秀であり、それは成績面だけでなく、クラブ加入率が高くなっている状況もある。これらに関しては地元から本校をよく理解していただいて、選んで入学してくれていることのあらわれでもあると思う。 ○大学のオープンスクールやオープンカレッジに参加してもほとんど学生が入学してこないのに対し、佐野工科オープンスクールの結果を見ると 6 割ぐらい入学してくる状況が分かった。努力されたからこそその結果であると思う。 ○学校教育自己診断の資料で見ると家庭との連携に課題があるようにも見えるが。 Ans. 昨年度家庭との連携を課題ととらえ、取り組みを行った結果、学校教育自己診断での保護者の満足度は上がり、良い関係を保てていると思う。 ○工科高校としての魅力、オープンスクールの内容に期待しているということ、ものづくりの取り組み成果からこんなに受賞していることや、つくる楽しみを実感している生徒の様子が分かった。先生方が出張や休みの日にも出てきて目標に向かって指導されたがんばりが見える。 第 2 回 令和元年 10 月 28 日（月） 15：40～17：00 ○いじめチェックアンケートで懇談生徒延べ 73 件というのはどのような対応で行っているのか？ Ans. チェックシートの質問項目に「クラスの中の居心地はどうか」などがあり、居心地の回答で「悪い」や「とても悪い」のチェックがある生徒や気になる記入のある生徒に対して各担任や保健人権担当者が生徒に懇談をおこなった。今年度 2 回行っており、2 回目的人数が増えている。 ○進路指導の中で教員をめざして、佐野工科高校へ戻ってくるという状況はあるのか？以前、機械科だけでも卒業生の教員が 20～30 名もいた時があるので、母校愛に燃える生徒が増えていくのがいいなと思う。 Ans. 実際に教育実習生は毎年受け入れており、期待している。 第 3 回 令和 2 年 2 月 17 日（月） 15：40～17：00 ○生徒相談満足度が△になっているが、これはどのように判断しているのか？ Ans. 基本は×をつけないので、△というのは十分ではないということ。目標設定の数値も毎年どの辺が妥当か、これを見ながら判断する。 ○教員のアンケート結果は昨年と比べて下降気味であるようだが、これについては様子を見ていくのか。 Ans. 教員の問題意識、正直な感想ととらえている。何が課題か分析をし、次年度の取組とする。 ○進路指導に関しての数値は上がっている。ロボット相撲など様々な大会参加で優秀な成績を修めた生徒などは自信をもって社会にでていける。 ○ブログ、YouTube なども含め、外へ PR をどんどんやっていけば、入学希望者も増えるのではないか。オープンスクール参加希望者の中には H P で知った人が多かったのか。 Ans. これについては中学校の先生からの勧めが多いようである。現在の 3 年生は退学者を減らす努力をし、250 名を超える卒業生を出すことができている。様々な課題を持つ生徒に粘り強く指導をしてきたことに対して、中学校の先生方にご理解と支持をいただいていると考えられる。 ○令和 2 年度 学校経営計画について中期目標を再度詳しく説明を求める。 Ans. 項目の順序については、生徒を教育するうえで大切にしたい順に入れ替えた。最初に「基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成」を挙げている。2 番目に「確かな学力」の育成であり、課題解決型学習や探求を通して、思考力・判断力・表現力を育成し、表現力を育成することが重要と考えている。3 つ目には「生徒一人ひとりを大切にした教育の推進」し、4 番目に「地域の宝」として地元から大切にもらえる学校づくりを目標にしている。 ○極端に目標数値を上げることなく、継続できることを重点にしているのが、よく理解できた。 令和 2 年度の学校経営計画及び学校評価について委員一致で承認をする。

府立佐野工科高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導の推進	(1) 基礎学力の定着を図るため、授業規律を徹底し、「魅力のある授業」・「わかる授業」を全教員で実践する。 (2) 生徒の主体的・協同的な学びを推進する。教員の授業力の向上を図ることで生徒の満足度を高める。	1)・授業アンケート、外部テストを活用し、各教科、個人の課題を明確にし、改善を行う。 ・少人数授業を行う。必要に応じて習熟度別授業を実践し、生徒の課題に適切に対応する。 (国語、数学、英語の3科目及び家庭) 2)・授業見学や研究授業を実施し、好事例の共有を図る。 ・職員会議、研修等で、授業改善について「目標」「手段」を明確にし、教員で共有する。	1)・授業理解度 75%以上 (H30 [普通科] 78.7% [専門(座学)] 74.8% [実験・実習] 82.6%) 2)・授業アンケートスコア 3.18 以上 (H30 [7月]3.16・[12月]3.18) ・授業公開週間 2回以上実施(H30 2回) ・教員授業見学数 250回(H30 268回)	1)・授業理解度 75%以上 (○) [普通科] 76.9% (○) [専門(座学)] 72.8% (△) [実験・実習] 81.1% (○) <u>[概ね期待された結果であった]</u> 2)・授業アンケートスコア 3.18 以上 (◎) [7月]3.14・[12月]3.21 ・授業公開 2回 (○) ・教員授業見学数 333回 (◎) <u>[期待以上の結果であった]</u>
2 生徒一人ひとりを大切に した教育の推進	(1) 工科高校における新たな教育を探求し、習得した技術・技能を基礎とした、製品開発力や発信力を育成する。 (2) 正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」・「職業教育」の充実を図り、社会の変化に主体的に対応できる力を育成する。 (3) 生徒一人ひとりに寄り添った指導を実践する。いじめを防止し生徒に安全で安心は教育環境を提供する。 (4) 支援が必要な生徒については、「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成し、個性に応じたきめ細やかな支援を行う。	1)・創造性豊かな製品開発力を育成するため、ものづくりに関する競技、コンテスト等に積極的に参加出場する。 2)・進路指導部と学年団・専門系が連携し、進路講話やインターンシップ、企業見学などを積極的に実施し、進路選択の情報提供を充実させる。 3)・「いじめは絶対に許さない」の信念のもと、厳しさの中にも、カウンセリングマインドを持って生徒指導を行う。 ・生徒指導に関する生徒情報交換会を実施する。 4)・支援コーディネータを中心として、教科担当者と担任等が連携し、学習支援や相談機能を充実させ、中途退学者の防止を図る。 ・教育相談体制を充実させ、生徒の問題の早期発見と解決を図る。	1)・コンテスト応募件数 100件以上 (H30 133件) ・近畿大会・全国大会入賞 (H30 ロボット相撲全国大会、マイコンカー全国大会) 2)・応募前職場見学参加者 90名以上 (H30 85名) ・インターンシップ参加者 40名以上(H30 26名) ・企業見学 350名以上(H30 348名) ・就職一次合格率 85%以上 (H30 86.7%) 3)・生徒入学満足度 70%以上 (H30 68.1%) ・生徒登校満足度 70%以上 (H30 69.2%) ・生徒いじめ満足度 80%以上 (H30 80.4%) ・生徒指導納得度 65%以上 (H30 60.7%) 4)・支援準備委員会 10回以上 (H30 10回) ・支援チーム会議 20回以上 (H30 21回) ・ケース会議 3回以上 (H30 5回) ・生徒相談満足度 60%以上 (H30 59.2%) ・退学率 2%未満 (H30 2.4%)	1)・コンテスト応募件数 (◎) 138件 ・近畿大会・全国大会入賞 (◎) アイデアコンテスト入賞等 3点 大会入賞等 5点 <u>[期待以上の成果を得られた]</u> 2)・応募前職場見学参加者 131名 (◎) ・インターンシップ参加者 9名 (△) ・企業見学 375名 (◎) ・就職一次合格率 86.2% (○) <u>[全体的には良好な結果であった。インターンシップについては、日程、受け入れ企業の課題があり達成できなかった]</u> 3)・生徒入学満足度 70.8% (○) ・生徒登校満足度 64.7% (△) ・生徒いじめ満足度 78.8% (△) ・生徒指導納得度 59.2% (△) <u>[不十分な結果となった。次年度に向けて改善に取り組む]</u> 4)・支援準備委員会 5回 (○) ・支援チーム会議 17回 (○) ・ケース会議 1回 (○) ・生徒相談満足度 57.5% (△) ・退学率 1.2% (◎) <u>[会議の回数が少ないのは要対応件数の減少による]</u>
3 規範意識の醸成	(1) 家庭や地域と連携し、基本的生活習慣の確立と、社会性や規範意識をはぐくむ。また、課題を早期に発見し中途退学を防止する。 (2) 部活動や学校行事等の活性化を図り、生徒の自尊感情と愛校心を育成する。	1)・日常的に頭髪、服装等についての指導を行う。また、定期的に全校的な指導を実施し、規範意識の向上を図る。 ・各学期に懇談週間を設定し、家庭と生徒情報を密に交換し、課題の早期発見に努める。 2)・新入生に対して、また、中学生に対してもクラブ体験週間を実施し、入部を促進する。	1)・懲戒指導件数 30件以下 (H30 32件) ・遅刻数 1000件以下 (H30 1229件) ・保護者入学満足度 95%以上 (H30 94.4%) 2)・クラブ加入率 40%以上(H30 39.2%) ・生徒行事満足度 75%以上 (H30 74.9%)	1)・懲戒指導件数 16件 (◎) ・遅刻数 1195件 (△) ・保護者入学満足度 94.7% (△) <u>[概ね期待された結果であった。さらなる改善に取り組む]</u> 2)・クラブ加入率 39.3% (△) ・生徒行事満足度 70.2% (△) <u>[目標が達成できなかった。次年度活性化に向けて取り組む]</u>
4 地域と連携した広報活動の充実と開かれた学校づくり	(1) 学校説明会等広報活動を積極的に行い、学校の魅力の発信を効果的に実施する。 (2) 「地域産業連携重点型」工科高校として、地域企業や、行政組織等と連携してイベントに参加し、活動成果を情報発信するとともに、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図る。 (3) 校内の ICT 化を推進し、効率的、効果的な情報発信をおこなう。また、会議時間の縮減を行い、教員の負担軽減を図る。	1)・中学生及びその保護者のニーズに沿った「オープンスクール」を年2回実施する。 ・会場、方法の異なる説明会を実施する。 2)・地域企業、事業所等と連携し、ものづくりにおける技術力の向上を図る。 ・行政機関や民間団体等と連携し、様々なイベントに参加して、ものづくりへの関心を高め、生徒の発信力を高める。 3)・多様な時期、母体より、積極的に学校 Web ページを活用した学校 P Rを行う。 ・校内の ICT 環境を整備し、情報共有の効率化を図ることで、教員の事務負担を軽減する。 ・会議時間の短縮を図り、教職員の負担を軽減し、働き方改革を行う。	1)・オープンスクール参加者 400名 (H30 453名) ・その他説明会開催回数 12回以上 (H30 12回) 2)・企業等連携 25社以上 (H30 25社) ・学校 P R (イベント参加) 8回以上 (H30 11回) 3)・学校 Web ページの更新 100回以上 (H30 257回) ・職員会議実施時間 1時間以内 80%以上 (H30 94%)	1)・オープンスクール参加者 373名 (△) ・その他説明会開催 12回 (○) <u>[概ね期待された結果であった。オープンスクール参加者未達成は、定員オーバー、当日欠席、募集人員の減少による]</u> 2)・企業等連携 20回 (△) <u>[受け入れ企業の要因による]</u> ・学校 P R (イベント参加) 8回 (○) <u>[概ね期待された結果であった]</u> 3)・学校 Web ページの更新 198回 (◎) ・職員会議実施時間 88.9% (◎) <u>[期待以上の結果であった]</u>